

2025年5月22日

報道関係各位

株式会社OKB総研

## 「新入社員の生成 AI に対する意識」調査報告

OKBグループのシンクタンク(株)OKB総研(岐阜県大垣市郭町2-25 社長 小川真二)は、標題の調査結果を取りまとめましたのでご案内します。当社では、OKB 総研主催の新入社員研修会の受講者を対象に、「新入社員の意識調査」を毎年実施しています。

今回は時事調査として、「新入社員の生成 AI に対する意識」について調査いたしました。

### 〈調査結果のポイント〉

#### ■ 生成 AI の利用経験がある新入社員は 43.2%

「生成 AI を利用したことがありますか」と尋ねたところ、「利用したことがある」が 43.2%、「興味はあるが利用したことはない」が 22.2%、「聞いたことがある程度」が 23.1%、「知らない・分からない」が 11.4% となった。

#### ■ 生成 AI の利用目的は「文章の作成」がトップ 次いで「アイデア出し」

「生成 AI をどのようなことに利用しましたか」と尋ねたところ、「文章の作成」が 64.0%で最も高く、次いで「アイデア出し」が 44.5%、「文章の要約」と「検索・情報収集」が同率で 42.0%となった。

#### ■ 生成 AI に対する印象は“好意的”が 8 割

「生成 AI にどのような印象を持っていますか」と尋ねたところ、「好意的」は 24.8%、「どちらかといえば好意的」は 57.2%と、合わせて 82.0%が“好意的”と回答した。

#### ■ 6 割が生成 AI により会社の業務に“影響がある”と回答

「生成 AI はあなたの会社の業務に影響を及ぼすと思いますか」と尋ねたところ、「影響があると思う」は 29.8%、「やや影響があると思う」は 32.4%と、合わせて 62.2%が“影響がある”と回答した。特に「サービス業」は 69.7%、「建設業」は 69.6%と、7 割弱が“影響がある”と回答している。

#### ■ 建設業では 6 割が業務で生成 AI を“使用したい”と回答

「自分の業務で生成 AI を利用したいですか」と尋ねたところ、「利用したい」と「できれば利用したい」を合わせた“利用したい”は 39.5%となった。特に「建設業」では“利用したい”が 60.9%と、他の業種に比べて高くなった。

#### ■ 6 割が生成 AI について“学びたい”と回答

「生成 AI (使い方など) について学びたいですか」と尋ねたところ、「学びたい」と「できれば学びたい」を合わせた“学びたい”は 61.3%となった。特に「建設業」は 69.5%、「製造業」は 64.5%が“学びたい”と回答した。

#### ■ 生成 AI の利用経験や AI による楽しさが生成 AI に対する印象にプラスの影響を及ぼす

生成 AI に対する印象を目的変数として順序ロジスティック回帰分析を行ったところ、生成 AI の利用経験がある人や「AI は私たちの生活を楽しくする」と考える人は、生成 AI に対し好意的になる可能性が高いことが分かった。一方、「AI はなんとなくこわい」というイメージを持っていると、生成 AI に対し否定的になる可能性が高いことが示唆された。

※調査結果詳細については次頁以降をご参照下さい。

資料配布場所：大垣市政経済記者クラブ、名古屋証券取引所・金融記者クラブ

【本件に関するお問い合わせ先：(株)OKB総研 調査部 梅木 風香 Tel.0584-74-2615】

## 調査の概要

調査対象	岐阜県・愛知県等の企業・団体の新入社員
調査期間	2025年3月28日～4月7日
調査方法	OKB総研主催の新入社員研修会（WEB,集合型）の受講者(755名)に無記名方式で実施
有効回答者数	463名(有効回答率 61.3%)
回答者属性	下表の通り

		全体	男性	女性	回答しない
有効回答者数		463名	267名	190名	6名
平均年齢		21.1歳	21.0歳	21.3歳	23.2歳
最終学歴	高校卒業	35.4%	36.7%	33.7%	33.3%
	専門学校卒業	10.2%	9.0%	12.1%	0.0%
	短期大学卒業	5.2%	2.6%	8.4%	16.7%
	4年制大学卒業	44.5%	45.3%	43.7%	33.3%
	その他	4.8%	6.4%	2.1%	16.7%
居住地	岐阜県	57.7%	56.6%	60.0%	33.3%
	愛知県	31.1%	32.2%	28.9%	50.0%
	三重県	1.3%	1.1%	1.6%	0.0%
	滋賀県	2.4%	3.0%	1.6%	0.0%
	その他	7.6%	7.1%	7.9%	16.7%
業種	製造業	42.5%	44.9%	39.5%	33.3%
	建設業	14.9%	18.4%	10.0%	16.7%
	卸売・小売業	7.8%	7.1%	7.9%	33.4%
	サービス業	7.1%	4.5%	11.1%	0.0%
	医療・福祉	6.9%	2.6%	13.2%	0.0%
	その他	20.8%	22.5%	18.3%	16.6%

(注) 端数を四捨五入しているため、合計は100%にならない場合がある（以下同じ）。

## 新入社員の生成 AI に対する意識

### (1) 生成 AI の利用経験

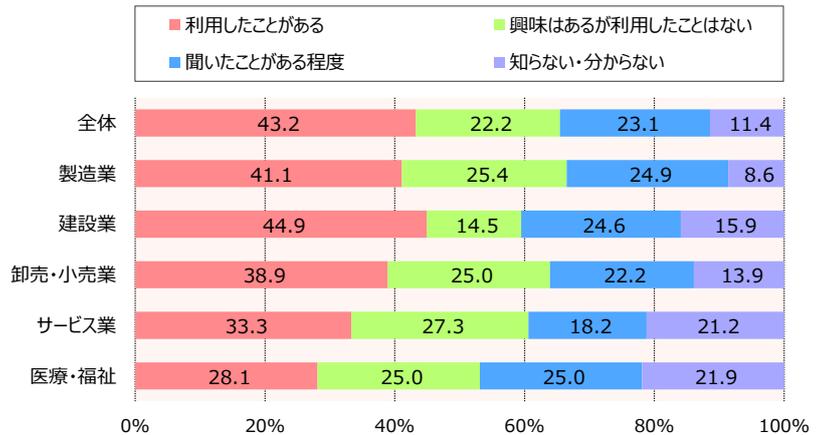
#### …「利用したことがある」が43.2%

「あなたは、生成 AI を利用したことがありますか」と尋ねたところ、「利用したことがある」が43.2%、「興味はあるが利用したことはない」が22.2%、「聞いたことがある程度」が23.1%、「知らない・分からない」が11.4%となった(図表1)。

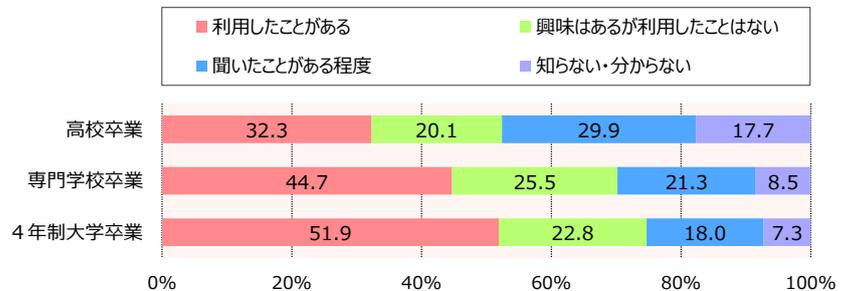
業種別に見ると、「建設業」および「製造業」は4割が「利用したことがある」と回答した。「利用したことがある」が最も低いのは「医療・福祉」で28.1%だった。

最終学歴別に見ると、「利用したことがある」は「4年制大学卒業」が51.9%と比較的高くなっている(図表2)。

図表1 生成 AI の利用経験 (業種別)



図表2 生成 AI の利用経験 (最終学歴別)



### (2) 生成 AI の利用目的

#### …「文章の作成」がトップ 次いで「アイデア出し」

生成 AI を「利用したことがある」と回答した人に、「あなたは生成 AI をどのようなことに利用しましたか」と複数回答で尋ねたところ、「文章の作成」が64.0%で最も高く、次いで「アイデア出し」が44.5%、「文章の要約」と「検索・情報収集」が同率で42.0%となった(図表3)。

図表3 生成 AI の利用目的 (※複数回答)



### (3) 生成 AI に対する印象

#### …“好意的”が8割

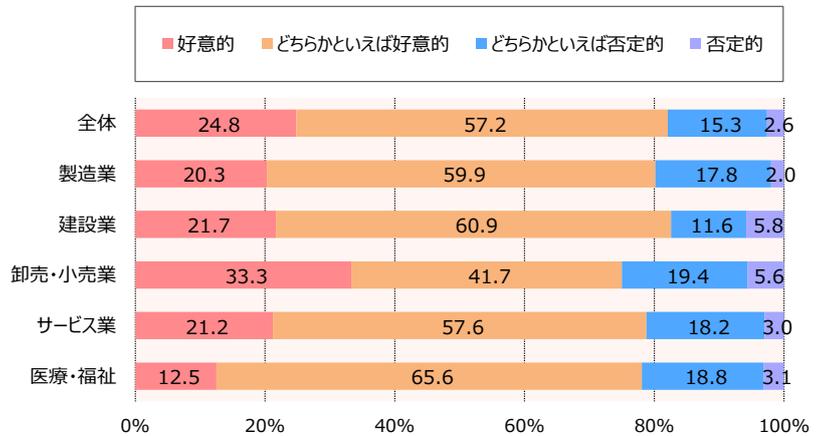
「あなたは、生成 AI にどのような印象を持っていますか」と尋ねたところ、「好意的」は 24.8%、「どちらかといえば好意的」は 57.2%と、合わせて 82.0%が“好意的”と回答した。「どちらかといえば否定的」と「否定的」を合わせた割合（以下、“否定的”）は 17.9%だった（図表 4）。

業種別に見ると、いずれも 7 割以上が“好意的”と回答している。

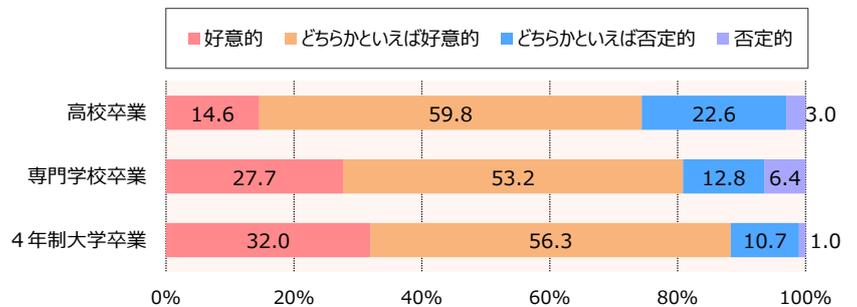
最終学歴別に見ると、「4 年制大学卒業」では「好意的」の割合が比較的高くなっている（図表 5）。

生成 AI の利用経験別に見ると、「利用したことがある」人は 47.0%が「好意的」と回答しており、それ以外の人に比べて大きな開きがある。また、“否定的”と答えた人は 4.5%にとどまっている（図表 6）。

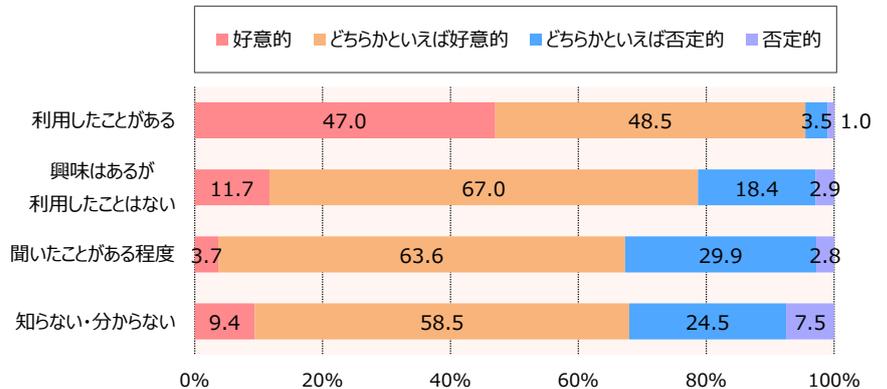
図表 4 生成 AI に対する印象（業種別）



図表 5 生成 AI に対する印象（最終学歴別）



図表 6 生成 AI に対する印象（利用経験別）



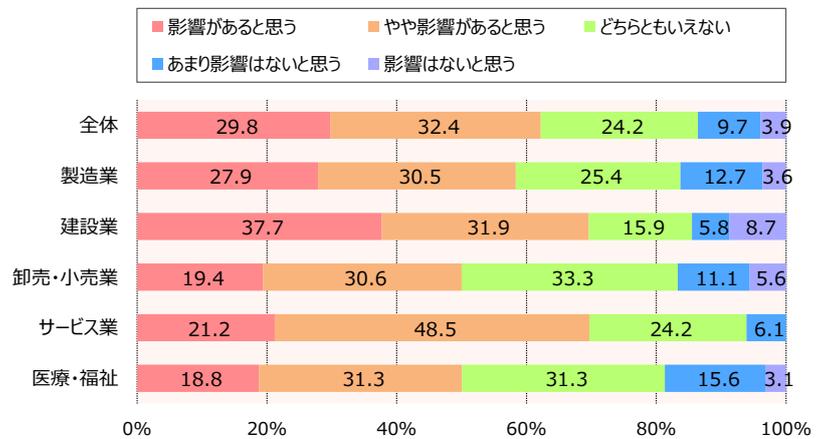
#### (4) 生成 AI の会社の業務への影響

##### …6割が“影響がある”と回答

「生成 AI はあなたの会社の業務に影響を及ぼすと思いますか」と尋ねたところ、「影響があると思う」は 29.8%、「やや影響があると思う」は 32.4%と、合わせて 62.2%が“影響がある”と回答した。「あまり影響はないと思う」と「影響はないと思う」を合わせた割合は 13.6%だった（図表 7）。

業種別に見ると、“影響がある”の割合はいずれも 5 割以上となっている。特に「サービス業」は 69.7%、「建設業」は 69.6%と、7 割弱が“影響がある”と回答している。

図表 7 生成 AI の会社の業務への影響（業種別）



#### (5) 生成 AI の業務への利用意向

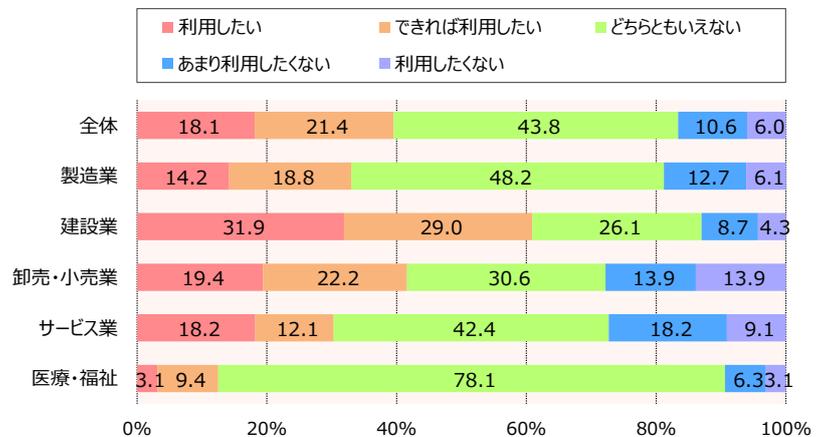
##### …「建設業」は6割が“利用したい”と回答

「あなたは、自分の業務で生成 AI を利用したいですか」と尋ねたところ、「利用したい」と「できれば利用したい」を合わせた割合（以下、“利用したい”）は 39.5%となった。「あまり利用したくない」と「利用したくない」を合わせた割合（以下、“利用したくない”）は 16.6%となった（図表 8）。

業種別に見ると、「建設業」では“利用したい”が 60.9%と、他の業種に比べて高くなった。“利用したい”の割合が最も低いのは「医療・福祉」で 12.5%となった。一方、“利用したくない”の割合は「卸売・小売業」が 27.8%で最も高く、次いで「サービス業」が 27.3%となった。

利用経験別に見ると、「利用したことがある」人は 61.0%が“利用したい”と回答しており、それ以外の人に比べて大きな開きがある（図表 9）。

図表 8 生成 AI の業務への利用意向（業種別）



図表 9 生成 AI の業務への利用意向（利用経験別）



## (6) 生成 AI の学習意向

### …6割が“学びたい”と回答

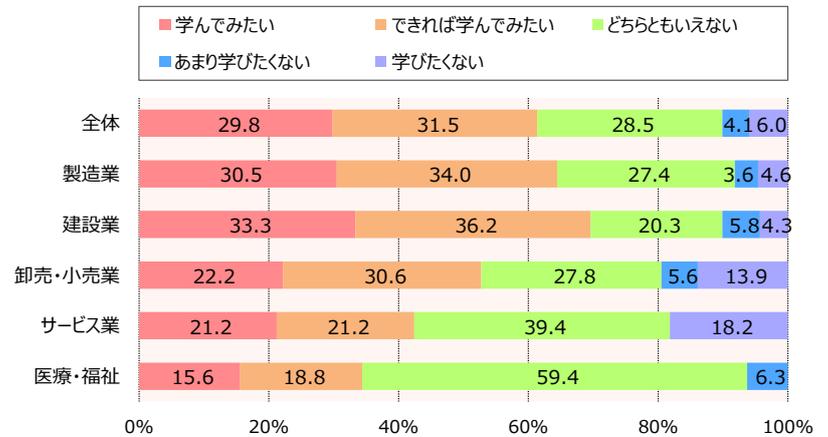
「あなたは、生成 AI（使い方など）について学んでみたいですか」と尋ねたところ、「学んでみたい」と「できれば学んでみたい」を合わせた割合（以下、“学びたい”）は 61.3% となった。「あまり学びたくない」と「学びたくない」を合わせた割合は 10.1% となった（図表 10）。

業種別に見ると、「建設業」は 69.5%、「製造業」は 64.5% が“学びたい”と回答した。“学びたい”の割合が最も低いのは「医療・福祉」で 34.4% となった。

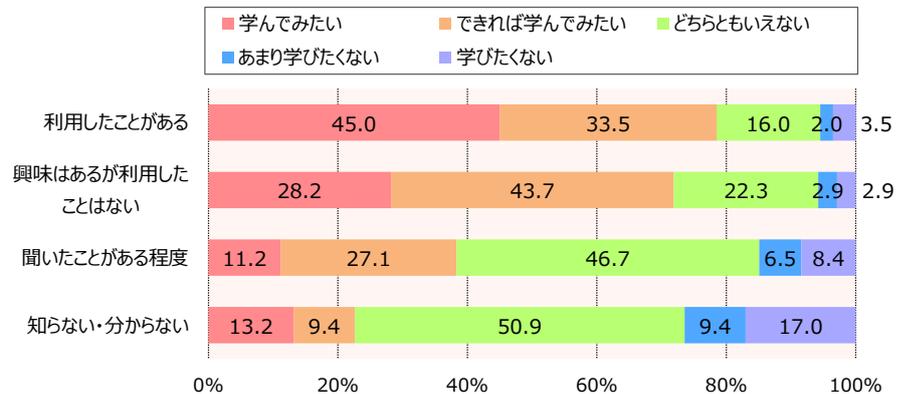
利用経験別に見ると、「利用したことがある」人は 78.5% が“学びたい”と回答した。また、「興味はあるが利用したことはない」人についても 71.9% が“学びたい”と回答している（図表 11）。

なお、生成 AI の業務への利用意向および生成 AI の学習意向については、いわゆる「ものづくり」にかかわる「建設業」や「製造業」で利用・学習意向が高かった一方、業務で対人コミュニケーションを要する場面が多いとされる「卸売・小売業」、「医療・福祉」、「サービス業」でやや消極的な傾向が見られた。

図表 10 生成 AI の学習意向（業種別）



図表 11 生成 AI の学習意向（利用経験別）

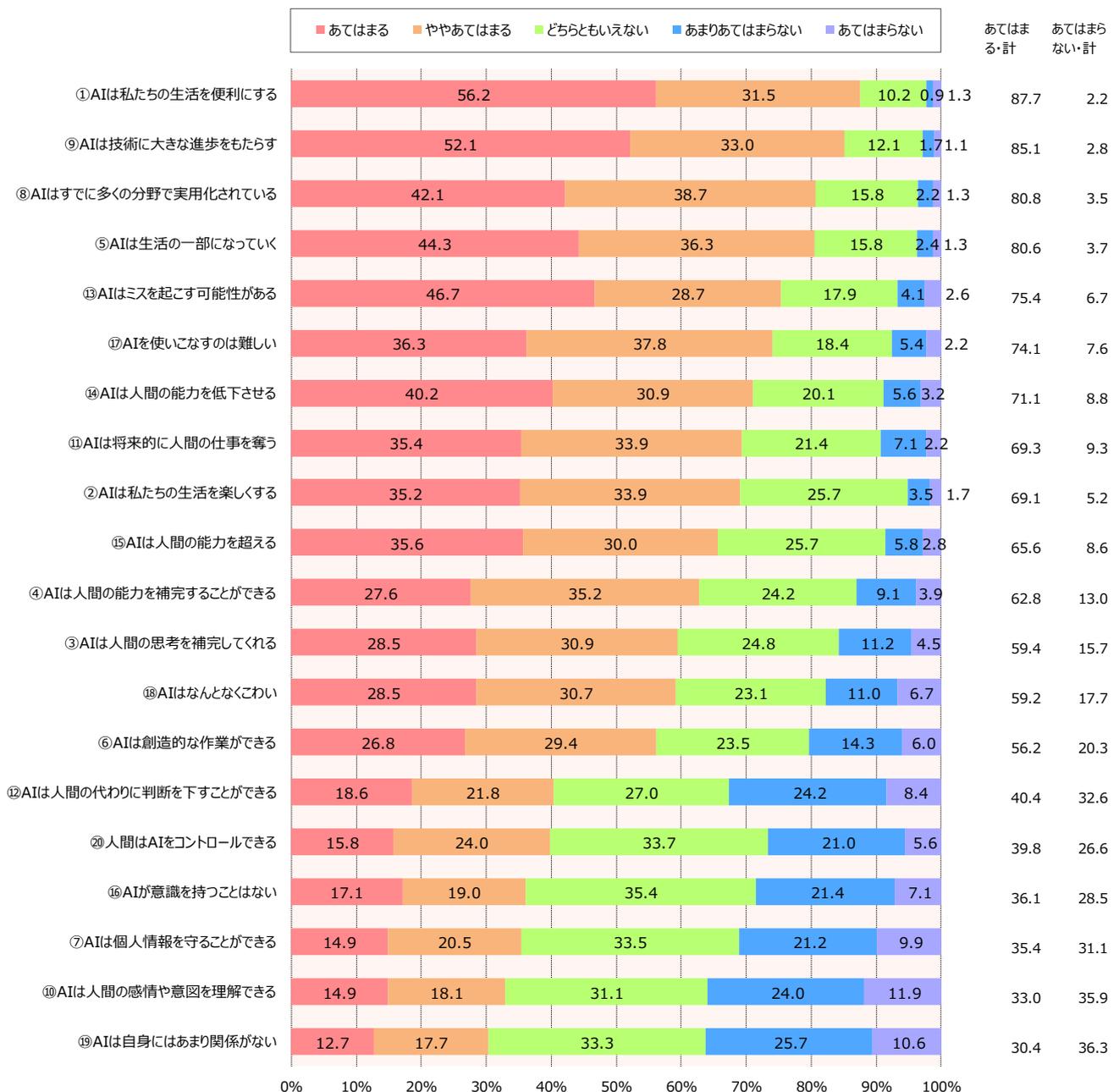


## (7) AIに対するイメージ

### …生成AIの利用経験やAIによる楽しさが生成AIに対する印象にプラスの影響を及ぼす

AI そのものに対するイメージについて20の設問(①～⑳は調査票における設問の順番を指す)で尋ねたところ、「①AIは私たちの生活を便利にする」、「⑨AIは技術に大きな進歩をもたらす」、「⑧AIはすでに多くの分野で実用化されている」、「⑤AIは生活の一部になっていく」といったポジティブな項目において、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合(以下、「あてはまる」)が8割を超えている。また、「⑬AIはミスを起こす可能性がある」、「⑰AIを使いこなすのは難しい」、「⑭AIは人間の能力を低下させる」などのネガティブな項目についても、7割超が「あてはまる」と回答している。「あてはまる」の割合が最も高いのは「①AIは私たちの生活を便利にする」で87.7%となっている(図表12)。

図表12 AIに対するイメージ(“あてはまる”が高かった設問順)



生成 AI に対する印象別に見ると、「①AI は私たちの生活を便利にする」について、生成 AI に“好意的”と答えた人の9割が“あてはまる”と回答しており、“否定的”と答えた人と比べ20ポイント以上の差がある。また、「②AI は私たちの生活を楽しくする」、「④AI は人間の能力を補完することができる」、「⑤AI は生活の一部になっていく」についても、“好意的”な人は6～8割が“あてはまる”と回答しており、“否定的”な人と比べ20ポイント以上の開きがある。

一方、“否定的”な人は「⑩AI は人間の感情や意図を理解できる」について51.8%、「⑦AI は個人情報を守ることができる」について47.0%が“あてはまらない”（「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合）と回答しており、“好意的”な人と比べ15ポイント以上の差がある（図表13）。

図表13 AI に対するイメージ（生成 AI に対する印象別、調査票の設問順）

		%					%	
		あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない	あてはまる・計	あてはまらない・計
①AIは私たちの生活を便利にする	好意的	60.8	31.1	7.9	0.3	0.0	91.9	0.3
	否定的	34.9	33.7	20.5	3.6	7.2	68.6	10.8
②AIは私たちの生活を楽しくする	好意的	39.7	35.3	22.9	1.8	0.3	75.0	2.1
	否定的	14.5	27.7	38.6	10.8	8.4	42.2	19.2
③AIは人間の思考を補完してくれる	好意的	31.3	31.3	25.0	10.3	2.1	62.6	12.4
	否定的	15.7	28.9	24.1	15.7	15.7	44.6	31.4
④AIは人間の能力を補完することができる	好意的	30.8	36.1	22.6	8.2	2.4	66.9	10.6
	否定的	13.3	31.3	31.3	13.3	10.8	44.6	24.1
⑤AIは生活の一部になっていく	好意的	46.6	37.6	14.5	1.3	0.0	84.2	1.3
	否定的	33.7	30.1	21.7	7.2	7.2	63.8	14.4
⑥AIは創造的な作業ができる	好意的	28.7	30.5	23.2	13.4	4.2	59.2	17.6
	否定的	18.1	24.1	25.3	18.1	14.5	42.2	32.6
⑦AIは個人情報を守ることができる	好意的	16.3	21.8	34.2	20.8	6.8	38.1	27.6
	否定的	8.4	14.5	30.1	22.9	24.1	22.9	47.0
⑧AIはすでに多くの分野で実用化されている	好意的	43.9	38.9	15.0	1.8	0.3	82.8	2.1
	否定的	33.7	37.3	19.3	3.6	6.0	71.0	9.6
⑨AIは技術に大きな進歩をもたらす	好意的	55.0	33.2	10.3	1.6	0.0	88.2	1.6
	否定的	38.6	32.5	20.5	2.4	6.0	71.1	8.4
⑩AIは人間の感情や意図を理解できる	好意的	16.3	19.5	31.8	21.8	10.5	35.8	32.3
	否定的	8.4	12.0	27.7	33.7	18.1	20.4	51.8
⑪AIは将来的に人間の仕事を奪う	好意的	33.4	36.1	22.6	6.6	1.3	69.5	7.9
	否定的	44.6	24.1	15.7	9.6	6.0	68.7	15.6
⑫AIは人間の代わりに判断を下すことができる	好意的	19.7	22.6	26.8	23.9	6.8	42.3	30.7
	否定的	13.3	18.1	27.7	25.3	15.7	31.4	41.0
⑬AIはミスを起こす可能性がある	好意的	47.4	29.2	18.4	3.7	1.3	76.6	5.0
	否定的	43.4	26.5	15.7	6.0	8.4	69.9	14.4
⑭AIは人間の能力を低下させる	好意的	39.5	33.2	20.3	5.3	1.8	72.7	7.1
	否定的	43.4	20.5	19.3	7.2	9.6	63.9	16.8
⑮AIは人間の能力を超える	好意的	37.1	29.7	26.8	5.3	1.1	66.8	6.4
	否定的	28.9	31.3	20.5	8.4	10.8	60.2	19.2
⑯AIが意識を持つことはない	好意的	18.2	19.7	36.6	20.8	4.7	37.9	25.5
	否定的	12.0	15.7	30.1	24.1	18.1	27.7	42.2
⑰AIを使いこなすのは難しい	好意的	36.8	38.7	18.4	4.7	1.3	75.5	6.0
	否定的	33.7	33.7	18.1	8.4	6.0	67.4	14.4
⑱AIはなんとなくこわい	好意的	26.8	30.8	24.2	11.6	6.6	57.6	18.2
	否定的	36.1	30.1	18.1	8.4	7.2	66.2	15.6
⑲AIは自身にはあまり関係がない	好意的	12.6	16.3	34.2	26.3	10.5	28.9	36.8
	否定的	13.3	24.1	28.9	22.9	10.8	37.4	33.7
⑳人間はAIをコントロールできる	好意的	15.0	26.8	33.7	20.8	3.7	41.8	24.5
	否定的	19.3	10.8	33.7	21.7	14.5	30.1	36.2

また、生成 AI に対する印象と属性・考え方との関係性を探るため、生成 AI に対する印象を目的変数として順序ロジスティック回帰分析を行った。

結果、生成 AI に対する印象にプラスに影響する要素として「4年制大学卒業」、「生成 AI を利用したことがある」、「①AI は私たちの生活を便利にする」、「②AI は私たちの生活を楽しくする」、「⑦AI は個人情報を守ることができる」、「⑩AI は人間の感情や意図を理解できる」、「⑬AI が意識を持つことはない」が統計的に有意であった。一方、生成 AI に対する印象にマイナスに影響する要素として「⑱AI はなんとなくこわい」が統計的に有意であった。

続いてオッズ比を見ると、生成 AI を利用したことがある人は、そうでない人に比べて生成 AI に好意的な評価をするオッズが約 8 倍高く、利用経験が好意的な評価に強く関係していることがうかがえる（ただし信頼区間の幅が広く、一定の不確実性があることを考慮する必要がある）。また、4年制大学卒業であることや、「②AI は私たちの生活を楽しくする」と考えていることのオッズ比も 2 倍を超えており、生成 AI に対する好意を比較的大きく左右すると解釈できる。また、「⑱AI はなんとなくこわい」と考えていることのオッズ比は 1 倍を下回っており、生成 AI に対し好意的になる可能性を下げることが示唆された（図表 14）。

図表 14 生成 AI に対する印象についての順序ロジスティック回帰分析の結果

説明変数	偏回帰係数		オッズ比(OR)		
	符号	有意性	OR	95%信頼区間	
				下限	上限
4年制大学卒業	+	**	2.02	1.34	3.07
生成AIを利用したことがある	+	**	7.87	4.85	13.15
①AIは私たちの生活を便利にする	+	*	1.53	1.11	2.12
②AIは私たちの生活を楽しくする	+	**	2.17	1.64	2.88
⑦AIは個人情報を守ることができる	+	*	1.32	1.07	1.63
⑩AIは人間の感情や意図を理解できる	+	*	1.24	1.01	1.53
⑪AIは将来的に人間の仕事を奪う	-		0.82	0.65	1.04
⑫AIは人間の代わりに判断を下すことができる	+		1.24	1.00	1.54
⑬AIが意識を持つことはない	+	*	1.21	1.01	1.46
⑱AIはなんとなくこわい	-	**	0.71	0.59	0.85

尤度比検定 (Model vs. Null) :  $p < 0.01$  McFaddenの擬似 $R^2$  : 0.283

(注1)順序ロジスティック回帰分析は、目的変数が3つ以上で、かつ順序性を持つカテゴリーデータの場合に、説明変数と目的変数の関係を分析する方法。生成AIに対する印象（「好意的」～「否定的」、4段階）を目的変数、最終学歴（「4年制大学卒業」=1）、生成AIの利用経験（「利用したことがある」=1）、AIに対するイメージ（「あてはまる」～「あてはまらない」、5段階）を説明変数とし、ステップワイズ法にて実施。図表は分析結果の一部を簡略化したもの。

(注2)符号は偏回帰係数の符号で、説明変数が目的変数に与える影響の方向（正か負か）を示す。有意性の記号は、\*\*は1%水準、\*は5%水準でその偏回帰係数が統計的に有意であることを示す。

(注3)オッズ比は、ある事象が発生する確率をその事象が発生しない確率で割った比率。オッズ比が1より大きければ高いカテゴリに入る可能性が高まる（正の影響がある）と解釈され、1より小さければ高いカテゴリに入る可能性が低くなる（負の影響がある）と解釈される。

(注4)オッズ比の95%信頼区間は、オッズ比の推定値が95%の確率で含まれる範囲を指す。また、95%信頼区間が1をまたぐ場合、そのオッズ比が統計的に有意ではないことを意味する。

## (8) 生成 AI に関する意見

「生成 AI について、あなたの思いや意見があればご記入ください（自由記述）」と尋ねたところ、以下のような回答が寄せられた（図表 15）。

図表 15 生成 AI に関する意見（一部抜粋）

- 正しく使えば便利なツールなので活用していきたい。
- 生成 AI は使い方を誤らなければ生活を豊かにし、必要とされる存在になる。
- プログラミングや論文の理解などでとても助かっている。
- 便利なので業務で使えると嬉しい。
- 業種によっては人間しか出来ない事もあるが、AI を使用して効率的な業務改善はするべきだと考えます。
- 社会に大きな変革をもたらすことを確信しており、人々の生活をより便利で豊かなものにしていくと思うが、そのことが人間の幸福に繋がるとはあまり思わない。
- ものすごい早さで AI の技術が発達していて、ついて行くのが大変。
- AI を使ってこなせるような仕事は AI に任せてしまい、人間には人間しか出来ない豊かな発想力を活かせるような仕事に集中する方が良いと思う。
- 頼りすぎると自分で考え判断する力が無くなってしまふのであまり使わないようにしている。
- 新しい情報を発信するのはいいことだと思うけど、誤った情報とかもあると思うからあまり信用できません。
- AI を用いたフェイク動画や画像などが流行している。これを止めないと本当の情報が分からなくなる。
- 今後生成 AI によって人が考える範囲の外から新しいアイデアをもたらす可能性は大いにあります。しかしある程度の制限をかけなければ差別や誹謗中傷の手段として悪用されかねない懸念もあります。そういった事にならない為にも生成 AI の便利さと危うさを理解していかなければならないと思います。
- 一刻も早く法整備を進め、権利の侵害についての問題を解決するべき。
- 生成 AI などを使用すること自体は否定しないが、悪用する人間が既に多く出没し、多くのクリエイターが被害を被っている事が許せない。AI 自体が悪いと言うよりも、利用する一部の人間のモラルの欠如が問題に思える。
- AI でも絵を描いてくれるものがあるけれど、イラストレーターさんなど頑張って描いたものなのに AI の絵だ！！と言われるのがとても嫌です。
- AI は生活する上でとても便利だが、人の仕事を奪うなど、失業者が増える可能性があるので吟味する必要があると思う。
- 今後人間が想像する範囲を超えて進化していくと思う。
- このままでは世の中を AI に支配されるのではないかと不安である。
- AI は優秀だけれども人間を超えることはできない。

以上